

# 平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 超高圧電子顕微鏡センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
<b>S</b>	<b>A</b>	<b>S</b>

## 【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		「超顕微科学研究拠点事業」において連携ネットワークの構築を進め、共同研究を海外1件含めて3件を実施したこと、基盤的研究に関して、材料科学や医学生物学への応用によって多くの論文発表に結びつけたこと、大学・研究機関と18件、企業と4件の共同研究を行い、論文発表に結びつけたことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		ナノテクノロジープラットフォーム事業により学内共同教育研究施設の枠を超えた研究支援活動を行い、研究課題や技術課題の解決に貢献したこと、複数の企業と共同研究を実施し、基礎研究段階から社会課題の解決を意識しながら製品開発や人材育成に貢献したことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		6月18日の大阪北部地震により、2台の超高圧電顕他、多くの汎用電顕が損傷したが、仮修理を実施し、2019年度内には復旧させる目途をつけており、業務運営に努めていることが認められる。

## 【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p><b>【評価コメント】</b>          常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入金額について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばし、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。          また、常勤教員に占める女性教員の割合について、積極的な採用に努めることで、これまでなかった実績を上げていることが評価できる。</p>
---